

### Ⅲ 重点施策への関心・認識

問 10 あなたは、これまで犯罪の被害者となった場合のことを考えたり、被害を受けた後の生活などを想像して不安を感じたことがありますか。(〇は1つだけ)

～「考えたことはないが、不安はある」が約4割～

これまで犯罪の被害者となった場合のことを考えたり、被害を受けた後の生活などを想像して不安を感じたことがあるかについて、「考えたことはないが、不安はある」が 42.3%と最も高く、次いで「考えたことがあり、不安を感じている」が 31.4%、「考えたことがあるが、不安は感じていない」が 15.7%となっている。

年代別でみると、「考えたことがあり、不安を感じている」は 30～50 歳代で高く、「考えたことはないが不安はある」は 60 歳代以上で高くなっている。

性・年代別でみると、「考えたことがあり、不安を感じている」は男性の 30 歳代、女性の 40～50 歳代で高く、「考えたことはないが、不安はある」は男性の 70 歳以上、女性の 60 歳代以上で高くなっている。

図33 犯罪被害者となった場合のことを考えたり、被害を受けた後の生活などを想像して不安を感じたことがあるか(n=1,638)

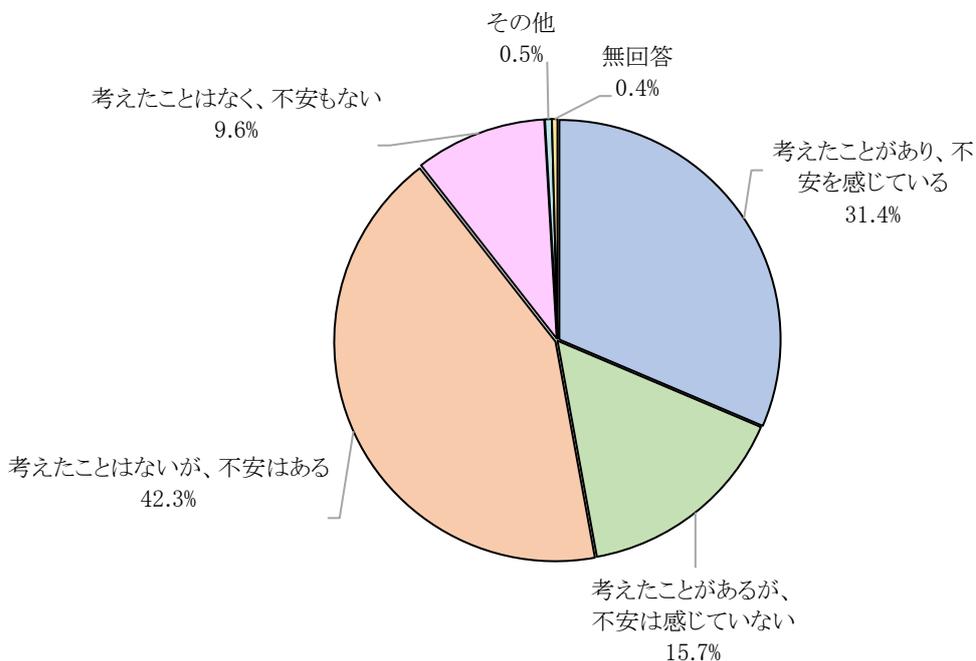
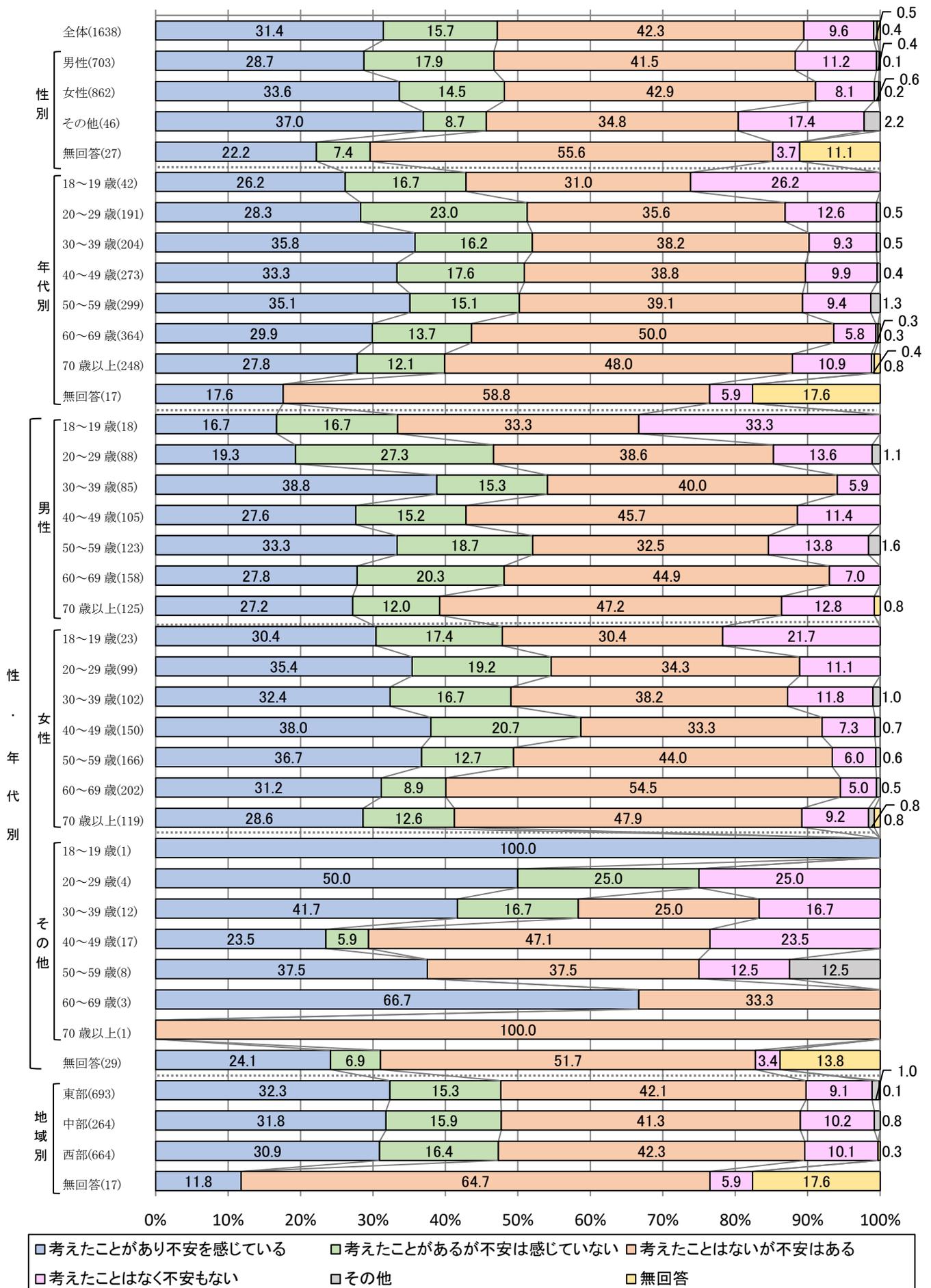


図34 犯罪被害者となったことを考えたり、被害を受けた後の生活などを想像して不安を感じたことがあるか



問 11 あなたは、犯罪被害にあわれた方や、そのご家族の方々にワンストップで様々な支援を行う、鳥取県犯罪被害者総合サポートセンターの存在を知っていますか。(〇は1つだけ)

～サポートセンターの存在を知っている人は、取組内容を知らない人も含めて約2割～

鳥取県犯罪被害者総合サポートセンターの存在を知っているかについて、「知らない」が60.3%と最も高く、次いで「県内で犯罪被害者等の支援に関する広報や啓発活動等について見聞きしたことがあるが、サポートセンターの存在は知らない」が17.5%、「サポートセンターの存在は知っているが、取組内容については知らない」が17.3%となっている。

年代別でみると、「サポートセンターの存在は知っているが、取組内容については知らない」「県内で犯罪被害者等の支援に関する広報や啓発活動等について見聞きしたことがあるが、サポートセンターの存在は知らない」は40歳代以降、年代が高くなるとともに割合が高くなっている。一方「知らない」は30歳代が最も高く、以降は年代が高くなるともに割合は低くなっている。

性・年代別でみると、「サポートセンターの存在は知っているが、取組内容については知らない」は、男性の60歳代、女性の70歳以上で高く、「県内で犯罪被害者等の支援に関する広報や啓発活動等について見聞きしたことがあるが、サポートセンターの存在は知らない」は男性の70歳以上、女性の60歳代で高くなっている。

図35 犯罪被害者やその家族の方々に様々な支援を行う、鳥取県犯罪被害者総合サポートセンターを知っているか(n=1,638)

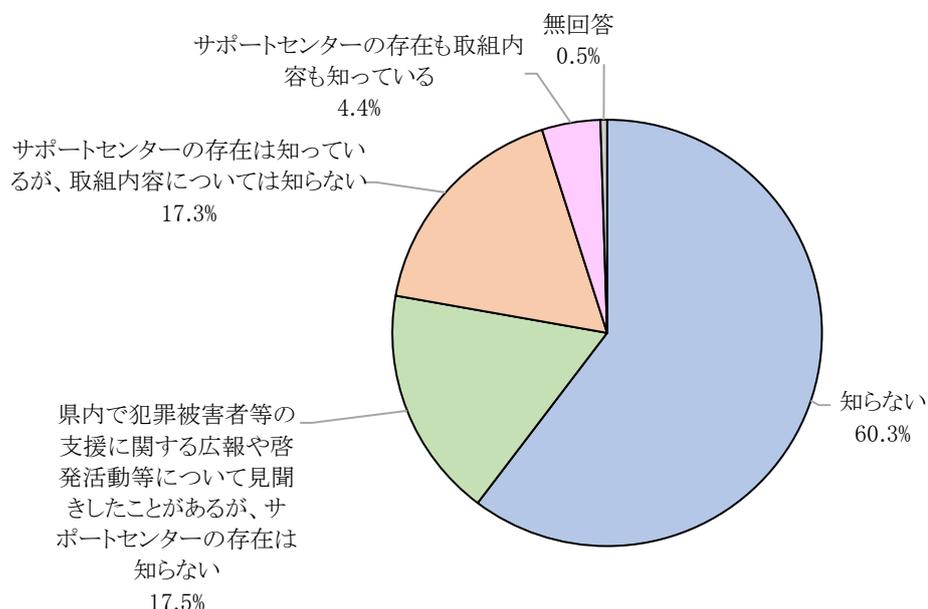
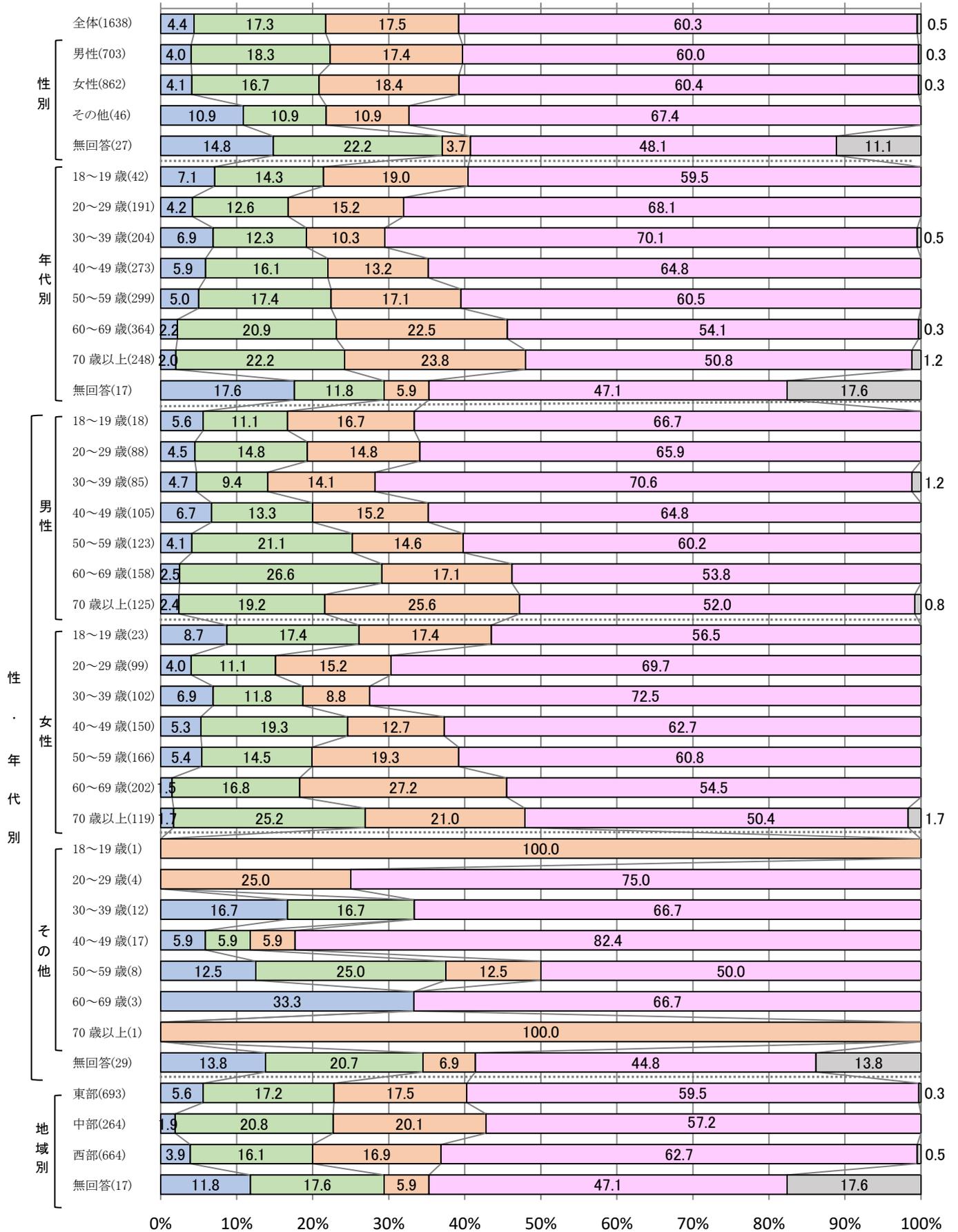


図36 鳥取県犯罪被害者総合サポートセンターの存在を知っているか



- サポートセンターの存在も取組内容も知っている
- サポートセンターの存在は知っているが取組内容については知らない
- 県内で犯罪被害者等の支援に関する広報や啓発活動等について見聞きしたことがあるがサポートセンターの存在は知らない
- 知らない
- 無回答

問 12 あなたが犯罪被害にあった場合を想定したとき、行政に求めたい支援は何ですか。  
(〇は2つまで)

～「必要となる医療費や裁判費用などの負担軽減、生活再建等に至る経済的な支援」が約6割～

犯罪被害にあった場合を想定したとき、行政に求めたい支援について、「必要となる医療費や裁判費用などの負担軽減、生活再建等に至る経済的な支援」が 59.6%と最も高く、次いで「犯罪被害者等が相談しやすい相談窓口の設置」が 46.9%、「弁護士相談や裁判に関する手続き等の情報の提供」が 35.7%となっている。

年代別でみると、「犯罪被害者等が相談しやすい相談窓口の設置」は、30歳代以降、年代が高くなるとともに割合が高くなっている。「必要となる医療費や裁判費用などの負担軽減、生活再建等に至る経済的な支援」「弁護士相談や裁判に関する手続き等の情報の提供」は、30～40歳代で高くなっている。

性・年代別でみると、「必要となる医療費や裁判費用などの負担軽減、生活再建等に至る経済的な支援」は、男性の60歳代、女性の30～40歳代で高く、「犯罪被害者等が相談しやすい相談窓口の設置」は女性の70歳以上で高くなっている。

図37 犯罪被害にあった場合を想定したとき、行政に求めたい支援(n=1,638)

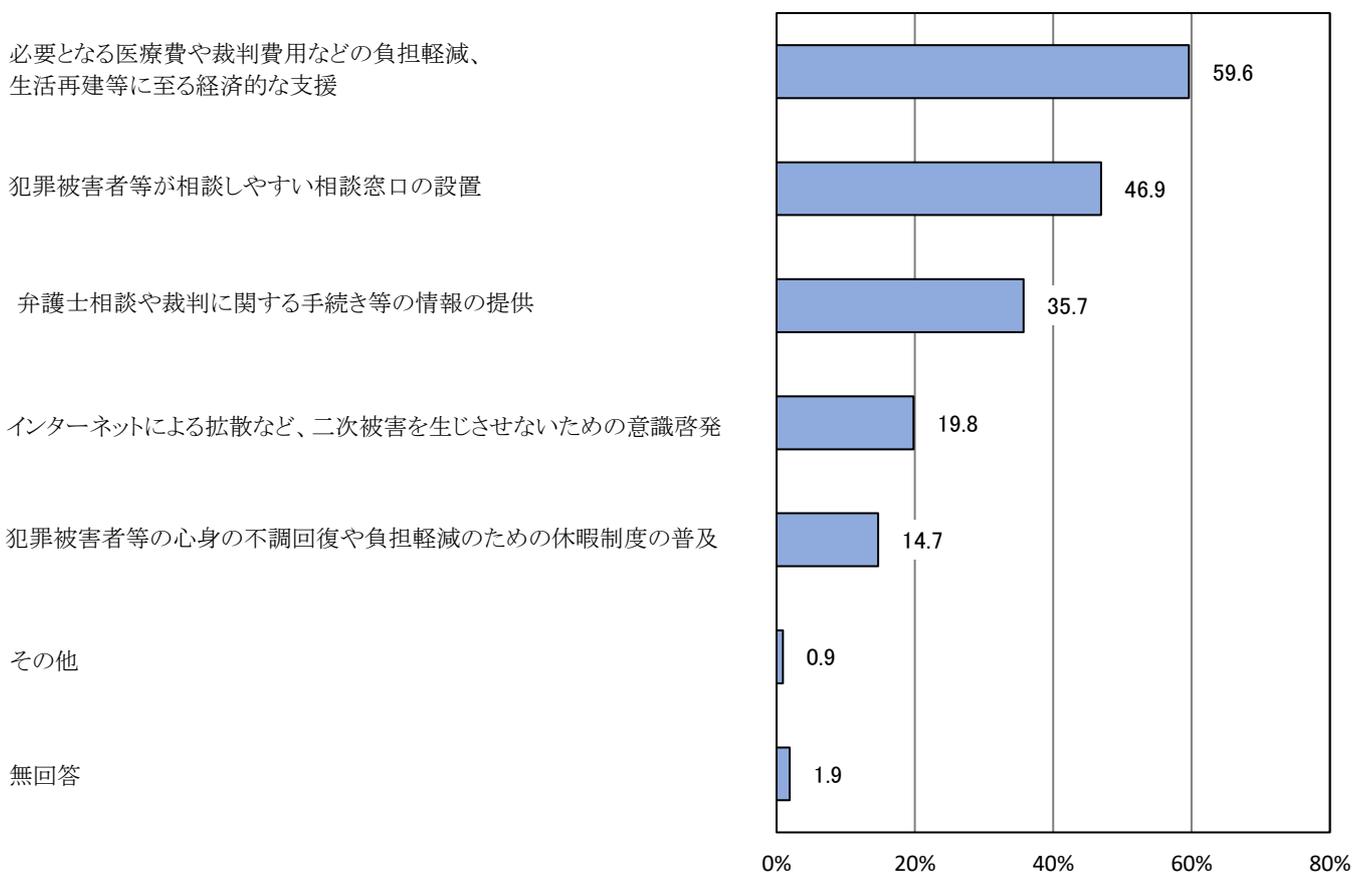
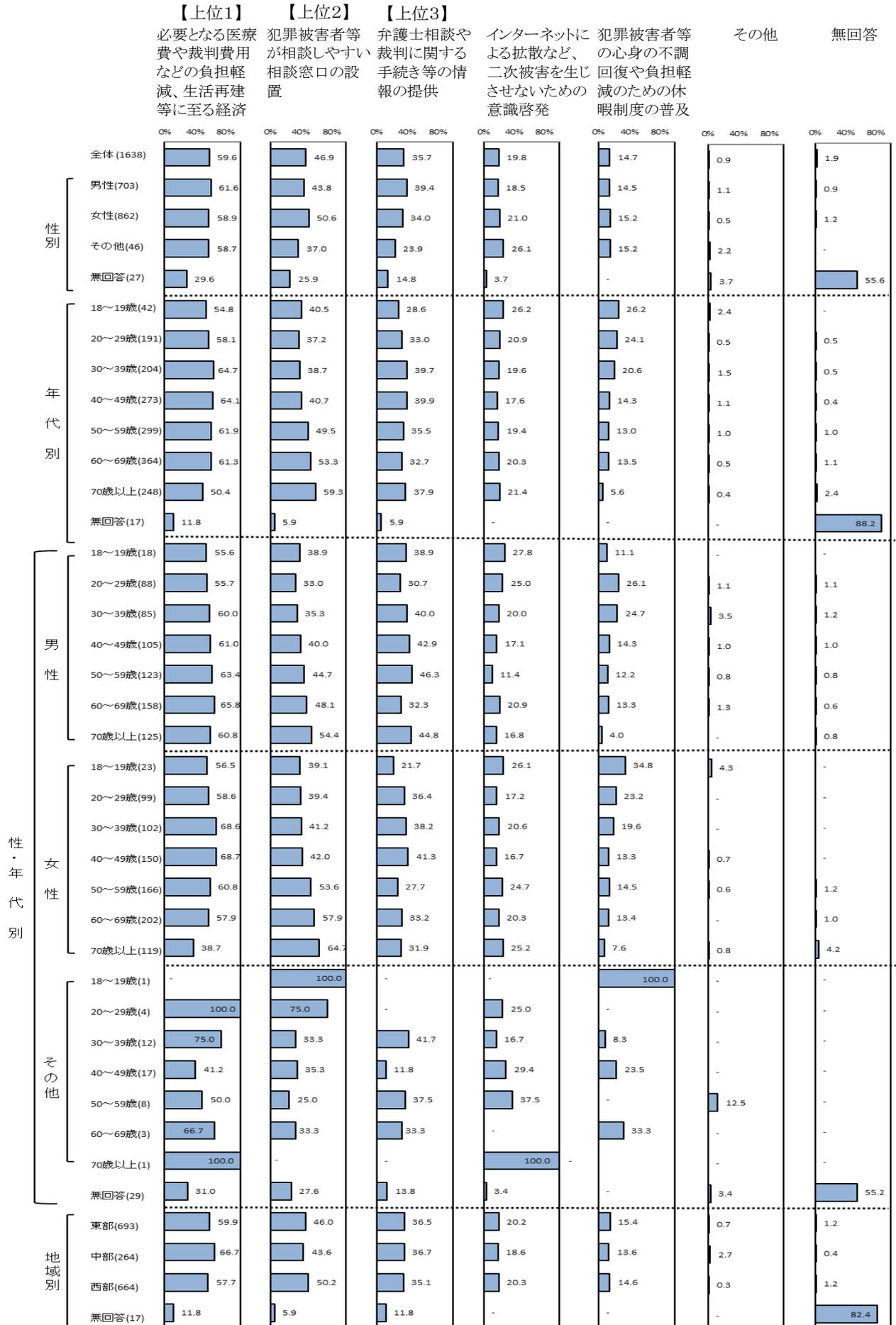


図 38 犯罪被害にあった場合を想定したとき、行政に求めたい支援(性別・年代別・地域別)



**問 13 あなたが犯罪にあったときに、受ける二次被害として最も深刻だと思われる被害は何ですか。(〇は1つだけ)**

**二次被害・・生命・身体・財産などに対する直接の被害(一次被害)だけでなく、その一次被害に起因する誹謗中傷や不適切な対応などによる精神的な苦痛や身体の不調などの被害**

**～「知人・友人の言動、近隣の噂や中傷」「報道機関の配慮に欠けた取材や偏見、インターネット上の偽情報や誤情報の拡散」が約3割～**

犯罪にあったときに、受ける二次被害として最も深刻と思われる被害について、「知人・友人の言動、近隣の噂や中傷」が 29.2%と最も高く、次いで「報道機関の配慮に欠けた取材や偏見、インターネット上の偽情報や誤情報の拡散」が 29.1%、「捜査、裁判の過程での精神的・時間的負担」が 17.0%となっている。

年代別で見ると、「知人・友人の言動、近隣の噂や中傷」は 70 歳以上で高く、「報道機関の配慮に欠けた取材や偏見、インターネット上の偽情報や誤情報の拡散」は 50～60 歳代で高くなっている。

性・年代別で見ると、「知人・友人の言動、近隣の噂や中傷」は女性の 70 歳以上で最も高く、全ての年代において女性が男性より高くなっている。

「捜査、裁判の過程での精神的・時間的負担」は、男性は 30 歳代以降、年代が高くなるとともに割合がわずかに高くなっている一方、女性の 30～60 歳代は年代が高くなるとともに割合は低くなっている。

**図39 犯罪にあったとき、二次被害として最も深刻だと思われる被害**

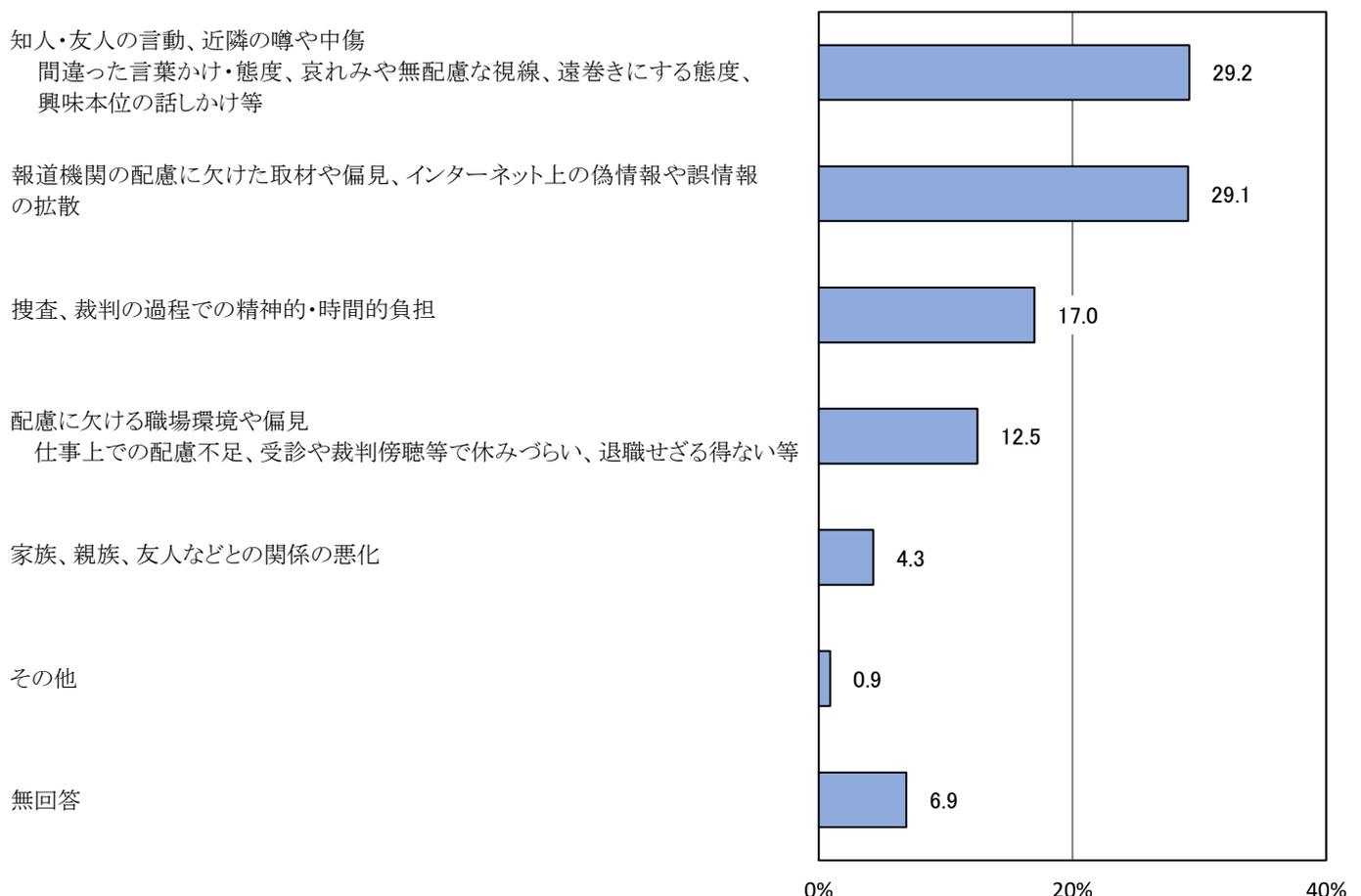
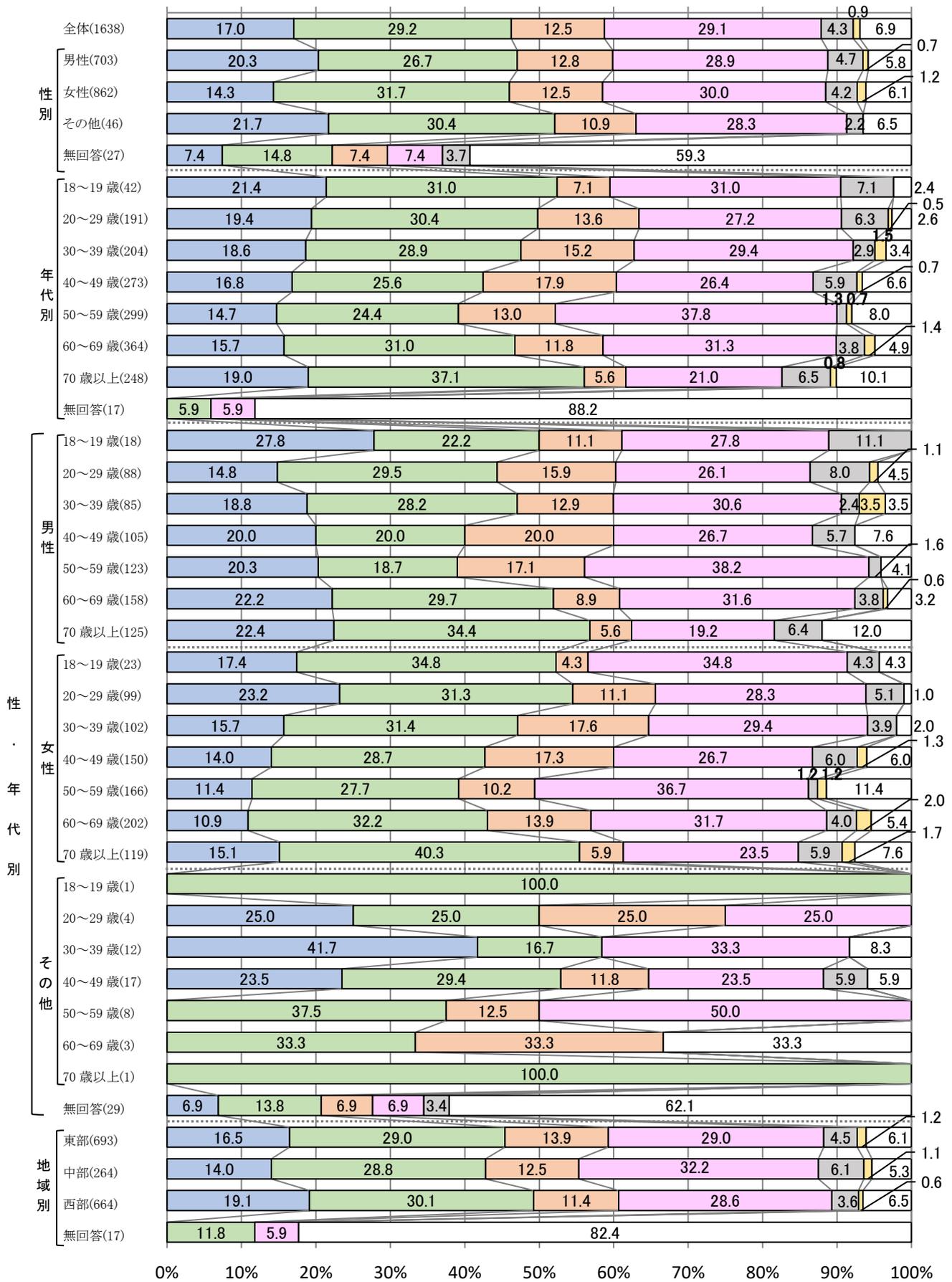


図40 犯罪にあったときに、受ける二次被害として最も深刻だと思われる被害



- 捜査、裁判の過程での精神的・時間的負担
- 知人・友人の言動、近隣の噂や中傷
- 配慮に欠ける職場環境や偏見
- 報道機関の配慮に欠けた取材や報道、インターネット上の偽情報や誤情報の拡散
- 家族、親族、友人などとの関係の悪化
- その他
- 無回答